

祈る人

情報工学科4年 柏原 麻美

「高い所から夜の町を見下ろすとき、みんな似たようなことを考える。あの小さな灯りの一つ一つに、知らない人のささやかな、それでもかけがえのない暮らしがあるんだって、そんなことを考える。でもそのあとは二通りに分かれる。そのささやかな暮らしのために祈る人と、そのささやかな暮らしを呪う人と。」

この言葉は、「MISSING」の「祈灯」という物語で、真由子が幽霊ちゃんと呼ぶ友達が言っていた言葉を兄に話す言葉です。

「祈る人」と「呪う人」、この世界では、どちらの人が多いのでしょうか。希望としては「祈る人」が多くあってほしいけど、本当に他人の幸せを祈るといのは、難しいことだと思います。家族、友達、恋人、自分の大切な人の幸せを祈ることはできても、まったく見ず知らずの、しかも多数の人の幸せを祈ることは不可能なことにさえ感じます。少なくとも、今の私にはできそうもありません。だからせめて、周りのいつも支えてくれている人達の幸せを願えるようにありたいと思っています。

あらためて、自分を支えてくれている人達を考えてみると、多くて、とても温かい気持ちになります。何かあると、すぐ報告したくなる友達、無性に会いたくなる友達、無条件で毎日時間を共にする家族、本当にありがたいと思います。今までの人生、十八年間で出会った人達の数は、どのぐらいの人数になるのか想像もつきません。これからまだまだ増えていくけど、一人一人に感謝の気持ちを持って、接していきたいと思います。

人の心の中や、過去、考えていることは、どんなにがんばっても分かるものではなく、その人が分かりやすく話してくれたとしても、その気持ちは完璧に体験することはできません。また、いつも笑顔で、誰にでも優しく接している人でも、心に深い傷を負っているかもしれないし、人はみかけだけでは分からないことの方が多いと思います。

「私は祈る人になりたい。」最後に、真由子が言った言葉です。真由子もまた、過去に深い傷を負っている女の子です。自分の過去を受けとめての言葉で、すごく深いなあ。と感じました。

私もうそ偽りなく、町の灯りを見たときに、「祈る人」になれるように、なりたいと思います。

MISSING 本多 孝好
双葉文庫